



資格を持ったオペレーターが無人ヘリコプターを操作し、水稲の上を行き来させ農薬散布を行う

救世主、現る！

町内で『無人ヘリコプター』を使った
水稲の農薬散布が行われる

現在、中山間地の農業は、後継者不足による担い手の高齢化が深刻な問題で、それに伴い、今後、耕作放棄地と、農地の利用とて頻度の少ない遊休農地が増加しています。

それらの増加に歯止めをかけるため、農業の効率化を図る一つの方法として、『無人ヘリコプター』を使った農薬散布の利用が増加しています。

7月23日、はしり穂が出た畑地区と小河内の一部の水田で、無人ヘリコプターを使った農薬散布が行われました。

無人ヘリコプターは、約2・7畝の車体に約250CCのエンジンを積み、液体の農薬を車体の両側に搭載。資格を持ったオペレーターが、広い水田を行き来させて農薬を散布します。

この日作業を行った森田セントラルファーム（伯耆町）のオペレーター、森田治夫さんは「3畝ほどの高さから回転翼から起こる吹きおろし風の効果で、農



美しい緑色の水田が広がる畑地区



集まれば農作業の情報交換で盛り上がる



作業について詳しく説明を聞く



回転翼から拭きおろす強烈な風により農薬を葉裏や株元まで付着させる

薬が葉裏や株元まで行き届き、少量でもしっかりと農薬が付着するので低コスト。依頼が絶えない」と、吹き出る汗を拭きながら説明しました。

作業の様子を見守っていた畑地区の独り暮らしの女性は「去年はナイアガラホースを使いました。農薬散布は米づくりの中でも特に重労働。今年があつという間に終わり、本当に楽をさせてもらいました。来年も米づくりをしようという気になりました」と、笑顔で話しました。畑地区の高齢化率は、71・43割（7月1日現在）。今回は、全世帯の水田で無人ヘリコプターを使った農薬散布が行われました。

また、小河内で作業を見守った男性は「あつという間だった。これからはぜひ利用していきたい」と、弾む笑顔を見せました。今年度日野町では、これらのほか、奥渡地区、下榎1区で実施または予定されています。

無人ヘリコプターを使った水稻の農薬散布の利用は、一地区あたりの合計防除面積が5畝以上で行われ、作業時間は、1畝をおよそ10分程度。作業は専門の業者が行うとのこと。稲の生育を見ながら、7月下旬から8月上旬に予定されます。

詳しくは、鳥取西部農協日野営農センター（電話72・0338）までお問い合わせください。

